# 高校生のための関なかサーチ　実施報告

## ◆開催概要

日　　時　　令和７年６月２１日（土）９：３０～１６：００

場　　所　　せきてらす　及び　本町商店街

参 加 者　　高校生　８名（関高１名、武義５名、加茂２名）

講　　師　　大学教員　４名（講師補助として大学生１４名も参加）

岐阜大学地域科学部　合掌顕 氏

中部学院大学人間福祉学部　水野友有 氏

岐阜医療科学大学看護学部　井戸恵里 氏

岐阜大学社会システム経営学環　水野輝彦 氏

司　　会　　岐阜大学地域科学部　三谷晋 氏

開催形態　　共催：関市市民協働課、岐阜大学地域科学部、中部学院大学、
岐阜医療科学大学、岐阜大学社会システム経営学環

## ◆タイムスケジュール（詳細）

9：00　受付開始

9：30　オープニング、関市の概要説明

9：40　大学教員４名によるミニ講義

10：40　フィールドワーク準備

10：50　４チームに分かれてフィールドワーク　※下記参照

12：20　昼食

13：20　まとめのワークショップ

14：50　各グループの発表、質疑応答

15：30　講師による総括

15：50　市民協働課から若者事業紹介、アンケート実施

16：00　終了

## ◆当日の様子

【午前の部】

大学教員によるミニ講義

フィールドワーク

【午後の部】

まとめのワークショップ

発表

**◆フィールドワーク（本町商店街）について**

大学教員の専門領域に合わせて、チームごとにテーマを設定し、まちあるきをした。
各テーマ、訪問先、ワークショップで出た意見（抜粋）は以下の通り。

**〇岐阜大学地域科学部　合掌顕 氏**

テーマ：「まちなかの“たまる”空間をデザインする」

意　見：川沿いの木陰は涼しく季節感があるため、整備することに加え、大きな葉や食べることができる植物を植えれば、人が溜まる空間になるのではないか。本町ネクストのベンチは短時間の休憩に適していて、飲食や買い物後にたまる空間であると感じた。古民家あいせきは外から見えにくいが和風で落ち着いた空間があり、人目を避けて落ち着ける場所は人間心理としても重要である。本町チャレンジベースは知っている人には便利だと思った。SNS 発信で知名度を上げることを行っているが、実際に訪れた人が、良さを発信することも有効であり、これは自分たちでも出来ることであると考えた。また外観がわかりづらいため入りにくく、学生向けではないと感じる面がある。外観で何をやっている場所かわかりやすくすることは、人を集めるためにも重要であると感じた。こうした改善は従業員の方々の工夫や努力が必要な点であると考えた。

**〇中部学院大学人間福祉学部　水野友有 氏**

テーマ：「また行きたい！はどんな街？～アクセシビリティ視点で考えよう～」

意　見：バリアフリーに関する看板やマップが少なく、駐車場やトイレの位置を示すバリアフリーマップの作成が必要である。これらを自分たち当事者が行うことで、車いすユーザーが利用しやすい環境づくりのため、地域の理解と助け合いが促進されると考えた。「あいせき」には砂利道や駐車場案内が分かりにくく、デザインとバリアフリーが必ずしも共存しない場合があった。また、ユニバーサルトイレにおけるユニバーサルシートの不足といった課題があり、これらの改善が求められる。以上を踏まえ「バリアフリーアップデート計画」を提案した。この計画には、マップ作成や看板原案作成、議員や行政との意見交換の場を設けること、障がいのある方による情報発信が含まれている。また、地域や行政には歩道整備やトイレ改善の協力を求め、移動型バリアフリートイレの導入も提案した。市長からは出来ることから配慮を進めていく意向が示された。

**〇岐阜医療科学大学看護学部　井戸恵里 氏**

テーマ：「街歩き×医療 innnovation～MaaS でつながる Seki のまち～」

意　見：良い点は駐車場が豊富で交通量も多い一方、自然も多く落ち着いた雰囲気の中「あいせき」や本町チャレンジベースなど人がたまれる場所が多いこと、地域の人から声をかけてもらえることであった。課題は車通りが多いが人通りは少なく道が狭いこと、使用率の低いたまる場所、空いている駐車場、シャッターの多さ、歩道整備不足、看板の少なさやお店の休みの分かりにくさである。これらを踏まえ、目に付きやすいピクトグラムを作るプランを提案した。人がたまる場所の利用促進や車から見える目印、国籍や年齢を問わない情報伝達を目的とした。今回は「本町の医療をもっと身近に」をテーマにピクトグラムを考えた。ピクトグラムに加え、MaaS 移動ルート整備や SNS 活用で周知を図る計画を示した。自分たちでできることとして、総合探求の授業で話題にすることや、話し合いの場を設けることがあげられた。

**〇岐阜大学社会システム経営学環　水野輝彦 氏**

テーマ：「まちなかの事業者・起業家から学ぶ」

意　見：関市は起業支援の仕組みが整っているが、「よそ者」という壁を感じることがあり、人間関係の課題として乗り越える必要があるがすぐに対応できるものではない。私たちの提案は「やりたい人がやりたい時にやりたいことができる環境づくり」である。具体的には、起業した先輩の話を聞く機会や、高校生と地域のつながりを増やすことによって、高校生が、自由に挑戦できる場を広げることがあげられた。また、成功例からでは得られない学びを得るために、悩みを匿名で共有できる掲示板を設置することで、同じ思いの人同士が新しいことを始められる場になると考えた。さらに、若者だけでなく、セカンドキャリアとして店舗開業を目指す上の世代への支援強化も必要であると考えた。発表後の質問のなかでは、本町チャレンジベースのような場所で、店舗を持つまではいかなくても、物販ができるスペースを作ってはどうかという意見もあった。

**◆参加者アンケート結果**　※８名回答（参加者８名中）

・イベント内容について、８人中７名が「とても良かった」と回答した。

・「とても良かった」と回答した理由として、「大学生や先生方との話し合いや先生の講和など、普段経験できないイベントに参加でき、探究活動に生かせることを学んだから」「実際に在宅看護をしている方の声が聞けたから」「意見交流が面白かった」といった意見が寄せられた。

・参加理由（自由記入）は、「総合探求の授業に生かすため」「三市連携で関市に興味をもった」など、自身の学びに生かすためという意見が多かった。

・イベント参加前後の変化について、８名が関市に対するイメージが「変わった」と回答した。

・その理由として「関市のサービスは充実しているが、知らなかった」「街の中にしらない工夫がありすぎた」「自分の住むまちにも活かせることを学べた」という意見が寄せられた。